冬の保育

附屬小學校主事　堀　七　藏

一

冬は幼稚園保育に於て特に注意すべきことが少くありません。寒いために幼稚園に通ふことが一般に困難となります。雪のある地方は尙更でありますが、さもない地方でも幼兒は手足が冷いために泣いたり、駄々をこねたりすることがあります。殊に手足に凍傷を生ずる幼兒がありますから、一層注意が肝要であります。成るべく凍傷を生じないやうに、手足をよくこすらせることも必要でありますし、また成るべく水をいぢらせないやうにすることも必要でありませう。既に凍傷の出來た幼兒にはそれがくづれないやうに、それ〴〵手當をなすことも大切なことであります。

二

冬の幼稚園では幼兒が風をひかないやうに、成るべく流行性感冒にかからないやうに努めねばなりま

せん。冬季はこの種の疾病が多いし、一人の幼兒から多くの幼兒に感染することが多いのでありますから、保育上十分細心な注意をせねばなりません。幼稚園保育に不賛成を唱へる人は少いのでありますが、幼稚園で病氣がうつるからどうも幼稚園に入れたくないといふ感を起すのは單に醫師ばかりではありません。幼稚園時代は小學校よりも所謂小兒病に感染し易い時代でありますし、幼稚園は小學校よりも幼兒相互の接觸する機會が多いために、小兒病に感染することが甚だ多いのは事實であります。それで幼稚園保育擔當者はこの方面に對して細心の注意を拂はねばなりません。毎朝幼兒が登園したならば成るべく幼兒の健康狀態を檢閲することが冬に於て特に必要であります。勿論家庭に對し傳染性の病氣にかゝつた幼兒を登園せしめないやうに、特に注意を喚起することが肝要であります。一人の幼兒がもとになつて五人十人と多くの幼兒が感染して大變に迷惑することがありますから、家庭では單に自分の幼兒一人を考へることなく、多くの他の幼兒との關係を考慮して登園を遠慮せねばならぬことを十分注意せねばなりません。尤もそれだけでは尙ほ不十分であります。どうしても幼兒が登園したときにその健康狀態を檢し、どうも怪しいと思ふやうなことがあれば家庭に歸すなり、休養室にて隔離して保育する位の用意と覺悟とを必要となすのであります。從來わが國の幼稚園に於ては幼兒の保健方面に注意を拂ふことが少く、兎角「幼稚園では病氣が感染して困る」と、嘆聲を發するものが多いのであります。それでこれは冬の保育に於て特に注意せねばならぬ點であります。

三

冬の保育に於て防寒のための方法について特に注意せねばならぬことが多いのであります、その一は幼兒の厚着竝に薄着であります。一般に幼兒が薄着のために感冒にかゝることはありませんで、多くは厚着をなしてゐることから起るものであります。親は厚着をさせるが、幼兒は幼稚園で盛に活動して汗をかき、休息してゐる間に感冒にかゝるとか、家庭にかへる途中風邪にかゝることが多いのであります。殊に室内が暖く、暖い所にゐた幼兒が急に寒い遊戯室に行つたり運動場に出るために風を引くことが多いのであります。元來幼兒は活動が盛であるから、著しい厚着は運動を束縛することが多く、また活動のときに汗ばんでゐたのが急に運動を中止して風邪にかゝることが多いものであるから十分警戒せねばなりません。一般に幼兒には厚着をさけ、また著しく暖い室はよくないのであります。常に幼兒の活動する室にも場所にも急劇な氣溫の變化がないことが望ましいのであります。兎角大人は幼兒を保護することのみを考へ、厚着をさせたり、暖い室内に幼兒を閉居させやうとしたり、手袋や襟卷をさせて幼兒を被包せんとするのでありますが、これは十分家庭と相談の上に適當なる防寒方法を講せねばなりません。

四

保育室にある暖房裝置に對する用心の必要なことは冬の保育上特に肝要な一事であります。火鉢を使用する場合でも、ストーブを用ひる場合でも、それに觸れたりそれをひつくり返したりして火傷するが如きことのないやうに注意すべきことであります。絶えず「あぶない〳〵」で、幼兒を叱るが如きことはよくありませんし、さりとて幼兒が火鉢やストーブの附近で遊んだり騷いだりしてゐると誠に危險であります。幼稚園の暖房裝置はこの點から十分なる考慮を拂つて設計せねばなりませんが、またストーブ圍いなり、火鉢被の如きものを使用して出來るだけ危險のないやうにせねばなりません。また火鉢やストーブなどの暖房裝置に對する注意の習慣を養はねばなりません。火のいたづらをなさぬこと、火鉢やストーブの附近で遊ばぬこと。また火鉢やストーブの周圍で押したり引ぱつたりせぬこと等は一々小言をいはないでも必ず實行するやうに躾けねばなりません。それから幼兒が盛に運動する場所には暖房裝置をなす必要がないのであります。スチームなどで中央暖房裝置をなした幼稚園は別ですが、火鉢やストーブなどの如き局所暖房裝置などは成るべく遊戯室などには設けないがよいのであります。幼兒が靜座してお話をきくが如き時には火を入れねばならぬことが多いのでありますが、幼兒の遊んでゐるときいろ〳〵の作業をしてゐるときには殆ど必要がありません。

冬の保育のため、保育室には必ず南から日を受ける暖い室でなくてはなりません。冬北側の保育室は殆ど保育室としての價値はありません。若し南側の保育室ならば朝の中、火を以て暖めれば澤山で、日

中ストーブをたく必要が殆どありません。南側の保育室で成るべくよく幼兒を活動させるやうになすことが冬の保育法の最も重要な點であります。

五

冬の保育でも好天氣であり、運動場がぬからないならば、成るべく室外で幼兒を遊ばせることが大切であります。冬の保育が室内に閉込められ勝なことは止むを得ないことでありますが、しかし「一寸風が寒いから」などと、口實を設けて室内にばかり幼兒を閉込めることは誠によくありません。出來るだけ日光に浴し新鮮なる空氣浴をなすやうに、冬の保育には一層努力する必要があります。殊に午前十一時頃から午後二時頃までの間に於て成るべく戸外で遊ばせる工夫をなすことが肝要であります。それで冬地面のぬからぬやう運動場が厚く砂か砂利を敷いてあることが誠に結構であります。アスファルトやタークレーの運動場は冬は冷く夏は暑くて幼稚園の運動場には一般に不向であります。

六

冬の保育では幼兒の食物に對する注意が肝要であります。即ちお辨當が成るべく溫かい方が衞生上望ましいことであります。「元氣な子供達であるから、冷い辨當でも差支あるまい。我慢させるより外な

い」といふのは無理であります。元氣な幼兒ですからそんなに厚着させる必要はないのでありますが、いくら元氣な幼兒でも冷いお辨當はよくありません。第一幼兒はあまり冷くては食べられませんし、消化器にもよくありませんし、消化が大變惡いのでありますから、成るべく溫い物を食べさせる工夫が肝要であります。暖い飲み物を與へることが出來ると結構でありますが、せめてお辨當が冷くならない程度に保つ工夫だけでも肝要であります。

食物と共に幼兒は冬になれば便所に行くことが頻繁となり、厚着のためと、腹工合の惡いことが多くなるためとでしくじることが多くなるのであります。これがまた冬の保育に於ける一大特徵となります。下着やパンツの取替を必要となすことが多く、從つて代用物を多く準備することが肝要であります、取替のとき風邪にかゝらないやうな工夫をなし、特別な室の設けがあれば尙更結構であります。

更に冬の保育の一大特色は鼻汁たらしが多くなることがあります。鼻カタルを起して鼻汁をたらすものが多くなります。また鼻汁たらしで鼻孔をふさぎ、鼻で呼吸せずして口で呼吸をなし、そのために扁桃腺肥大などが著しくなるといふことから、冬の保育には幾多の故障を生ずるのであります。年中を通じて常に鼻汁をよくかみ、常に鼻孔のスット通つてゐるやうに躾けねばなりません。冬になつてからではおそいのでありますが、それでも毎日毎朝家庭の人と協力して鼻をよくかむやうに注意し、常に鼻孔がスット通つて鼻で呼吸するやうに、深呼吸を行はせることが肝要であります。

一般に我が國では大人でも子供でも口を開けてゐるものが多いので鼻で呼吸せず口で呼吸する惡習慣があるからでありませう。

七

冬の保育に於てはいふまでもなく冬の材料を取入れねばなりません。冬の氣候に關する觀察を行はしめることが必要であり唱歌でも遊戯でも亦談話でも手技でも冬の材料を以てせねばなりません、雪でも氷でも、また霜でも霜柱でも、冬の樹木でも冬の花でも果實でも、また冬の着物でも冬の住宅でも更に冬の食物でも、一般に著しい特色があるのでありますからそれ等を觀察させることが大切であります。六ケしい理窟を授けるのでなく、冬の自然物自然現象に關する明白な觀念を得しめることが肝要であります。そして冬の遊びにも特色がありますから、冬の保育には矢張それ等を取入れることが必要であります。羽子つきでも凧上げでも、また雪投げでも雪だるまをつくることでも、その地方〳〵によつて異るところがあるが、兎に角冬の保育としては十分利用せねばなりません。またお正月を中心とした遊びも冬の保育には必ず取入れねばなりませんし、お雛樣祭でも紀元節も冬の保育に必ず取入れらるべき、年中行事でありませう。その他冬の植物、それ〴〵保育事項の內容を充實させるに適當したものが多いでありませう。

殊に四月より小學校に入學する年長の幼兒保育に於ては小學校入學準備の保育が冬の保育中に行はれねばなりますまい。小學校入學準備といつても小學校の教科にある事項を教授することを意味するものではありません。只滿六歳兒として相當な身體竝に精神の發達をさせることが肝要で、これは特に冬の保育だけに限定したことではありません。しかし數の觀念を特に發達せしむるやうに事物を數へることを多くするとか幼兒が要求するならば、文字を授けることもよいことであります。「幼稚園では文字を教へません」と強いて頑張る必要がありません。尤も小學校へ入學するまでに片假名だけは教へねばならぬとか、十以下の寄せ算を授けねばならぬといふが如き要求をするのではありません。只小學校に入學してから學級の生活に慣れ易く學校へ喜んで行くことが出來るやうに躾けることが肝要でありませう。